

～お伊勢さんゆかりの三大詩歌人の足跡を往く～

テーマ	芭蕉 ～ 外宮さんと伊勢人との交流の足跡をたずねる ～			
ルート名称	「俳聖 松尾芭蕉」追想の道			
拠点施設	伊勢市駅			
全行程	約 3.0 km			
所要時間	約1時間			
3	A 伊勢市駅 → B 外宮参道 → C 久保倉右近邸跡 → D 外宮 → E 大豊和紙工業 (龍太夫、松葉屋風瀑)			
	↓ H 月夜見宮 ← G 東邸 (古今伝授の祖 東常頼の家系) ← F 神路通			
	↓ I 島崎又玄邸跡 → A 伊勢市駅			

松尾芭蕉 — まつおばしょう —
 (1644～1694 三重県伊賀市赤坂町出身)

江戸時代前期の俳諧師。幼名は金作、名は宗房。俳号としては初め実名宗房を、次いで桃青、芭蕉(はせを)と改めた。蕉風とよばれる芸術性の高い句風を確立し、俳聖と呼ばれる。芭蕉は生涯に六度、伊勢参りをし、伊勢人との交流は深く俳諧興行もしばしばおこなわれた。

「たふとさに みなおしあひぬ 御遷宮」

【 E 大豊和紙工業 】

1899年(明治32年)に創立し、伊勢神宮をはじめ、全国の神社のお札に用いる和紙を製造する伊勢ならではの企業である。かつての「御師龍太夫邸」の跡地として歴史ある場所で、構内には明治天皇行在所遺址石碑がある。

伊勢和紙館

【 龍太夫 】

山田の御師としては、規模は最大級である。
 「物の名を 先ずとふ蘆の 若葉かな」

龍太夫邸跡

【 松葉屋風瀑 】

伊勢神宮の年寄師職家で、江戸の出店で芭蕉などの諸俳人と交流をもつ。
 「三十日月なし 千年の杉を 抱く嵐」

【 F 神路通 】

外宮の参道と月夜見宮とを繋ぐまっすぐな古道である。神様の通り道といわれる白馬伝説がある。

【 G 東邸 】

古今伝授の祖である東常頼の家系で、漢学者の東夢亭などの累代文墨の才人を輩出した。

【 H 月夜見宮 】

外宮別宮で月夜見尊(ツキヨミノミコト)と月夜見尊荒御魂(ツキヨミノミコトノアラミタマ)の二神を祀る。

【 A 伊勢市駅 】 古くから伊勢参りの玄関口として、1897年(明治30年)に「山田駅」として開業される。1959年に「伊勢市駅」に改称される。

伊勢市駅と伊勢神宮外宮を結ぶ参道。かつては大きな旅館が軒を並べていたが、今は山田館(木造3階)にその面影が残っている。

【 B 外宮参道 】

【 C 久保倉右近邸跡 】

外宮の高級神官。1688年(貞享5年)芭蕉が伊勢に滞在時同邸で歌仙興行をした。
 「紙ぎぬの ぬるともをらん 雨の花」

久保倉右近邸跡

【 D 外宮 】

豊受大御神(トヨウケオオミカミ)は、天照大御神の御饌(ミケ)を司るとともに農業・産業を守護する神である。
 「何の木の花とは知らず 匂いかな」

外宮

【 I 島崎又玄邸跡 】

山田の御師で芭蕉の門人ともいわれ、1688年(貞享5年)芭蕉が伊勢に訪れた際、同邸で過ごしている。
 「月さびよ 明智が妻の 咄しせん」

島崎又玄邸跡